

神納三俣台遺跡 — 低地に営まれた奈良・平安時代の集落 —

神納三俣台遺跡は、浮戸川を挟んで袖ヶ浦バスターミナルの北側隣接地に所在します。標高約6mの低地に所在する遺跡で、宅地造成に伴い平成8年度に発掘調査が実施され、奈良・平安時代の住居が14軒発見されました。袖ヶ浦市内において、同時期の低地に営まれた集落の数少ない調査事例となります。

住居の時期は大きく6期に区分され、8世紀前半から10世紀後半にかけて継続的に集落が営まれたと考えられます。2軒の住居からはシオフキとアサリを主体とする貝類が出土しており、奈良・平安時代における貝類検出事例として貴重です。

また、古墳時代に属すると思われる刀子や鉄鏟等の鉄製品が比較的多く出土しています。近隣にはかつて古墳が存在したといわれており、これらの鉄製品は本遺跡周辺に古墳が存在したことを物語る資料といえます。



神納三俣台遺跡全体図



神納三俣台遺跡から発見された住居



神納三俣台遺跡から出土した土器